

ごみ減量化に一人ひとりが取り組みましょう!



可燃ごみに混入していた資源ごみ

ごみを減らすための有効な方法
○可燃ごみの半分を占める水分を減らしてください。

水分は、生ごみに多く含まれているため、水切りの徹底などがごみ減量化のため有効です。



○「捨てればごみ、分ければ資源」といわれるように資源ごみの分別をお願いします。

実際に出された可燃ごみの袋の中には、お菓子の箱などの紙製容器包装やカップめんの器などのプラ製容器包装が5%から10%程度(重量比)混じっています。

○リデュース(Reduce)：ごみの発生抑制)にご協力ください。

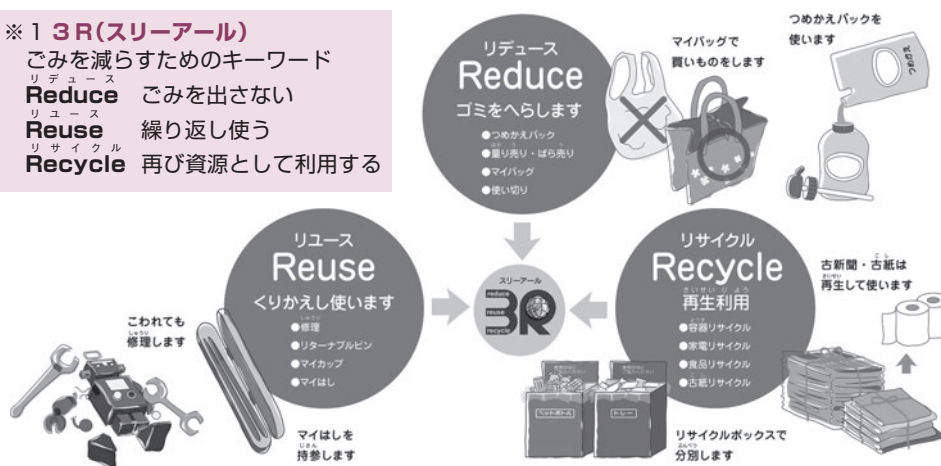
3R(※1)で一番大事なのは、ごみを出さないReduce(リデュース)です。

ごみをできるだけ発生させないよう食品などの包装は、簡易包装にご配慮ください。使い捨て商品の使用を控え、詰め替え用品を購入しましょう。

※1 3R(スリーアール)

ごみを減らすためのキーワード

リデュース Reduce ごみを出さない
リユース Reuse 繰り返し使う
リサイクル Recycle 再び資源として利用する



※2 3010運動(さんまるいちまる運動)

会食・宴会の乾杯後30分は席を立たずに料理を楽しみ、お開きの10分前になったら自分の席に戻り、再度料理を楽しむことにより食品ロスを減らす運動。



本市と姉妹都市提携を締結している松本市が平成23年度にはじめたもので、環境省も普及啓発に努めています。

食品ロスとは、本来食べられるものが食べられずに捨てられているものが多いですが、生ごみには約30%食品ロスが混じっているといわれています。食品ロスをなくすために、宴会で出された料理を食べきる3010運動(※2)の実施、食べきる分だけ買う、食べきれる分だけ作るを生活習慣に定着させましょう。

○食品ロスを減らすことにご協力をお願いします。



ダイレクトメールや印刷物などの雑

ごみ減量化に一人ひとりが

取り組んでください

ごみを処理するためには、収集運搬や焼却、埋立などに要する費用だけでなく、多くの手間やエネルギーが必要です。

焼却、資源化のできないごみは、最終処分場で埋立てられ、その排水処理などの維持管理は長期間にわたり行うことも必要です。

私たちの日常生活において、過度な消費・大量廃棄を繰り返すことは、地球の大切な天然資源を浪費するだけでなく、環境に対して過大な負荷を与えることにもなります。

さらに、ごみが増えたとステーションにごみがあふれ、ごみのポイ捨てが増えたり、まちの美観が損なわれることもあります。

ごみの発生抑制、再生利用の促進によるごみの減量化は、ごみ処理の効率化、施設の延命化に加え、環境への負荷を軽減し、限りある地球資源を有効に活用することに寄与するだけでなく、美しい高山市を持続させることにもつながります。

今後とも、ごみ減量化に向けて市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

次回は、新しいごみ焼却施設の必要性などについてお知らせします。